

台湾共同ゼミ 「日中文化交流史—日唐令比較研究」研討會	
日時	2009年11月1日(日)、2日(月)
会場	国立台湾大学國科會人文學研究中心會議室 (台湾・台北市)
参加者	古瀬奈津子(本学教授)、野田有紀子(同リサーチフェロー) 矢越葉子、重田香澄、染井千佳(以上、本学博士後期課程学生)、永井瑞枝、 古内絵里子、孟晶、難波美緒、濱崎瑠美(以上、本学博士前期課程学生) 高丹丹(本学大学院留学生、北京大学大学院生)

日程			
2009年11月1日(日) 第一天			
15:30~15:50	報到 / 茶敘		
15:50~16:00	開幕式		
14:00~16:30	第一場	發表人	論文題目
		野田有紀子 (御茶之水女子大學研究員)	日唐後宮空間比較研究 —禮空間としての後宮、 労働空間としての後宮—
		重田 香澄 (御茶之水女子大學大学院博士 後期課程)	平安時代の政務と漢籍
			與談人
			楊永良 (交通大學通識教育中心教授)
			徐興慶 (台灣大學日文系教授)
18:00~20:00	晚餐		
2009年11月2日(星期一) 第二天			
9:30~10:50	第二場	發表人	論文題目
		古瀬 奈津子 (御茶之水女子大學大学院 人間文化創成科學研究科 文化科學系教授)	日唐營繕令營造關係條文の検討
		李如鈞 (國立臺灣大學歷史系 博士候選人)	從土地交易律令演變看唐宋法律變革— —由《天聖・田令》說起
			與談人
			陳登武 (台灣師範大學歷史系副教授)
			高丹丹(御茶之水女子大學大學 院留學生、北京大學博士課程) 永井瑞枝(御茶之水女子大學大 學院博士前期課程)
10:50~11:10	茶敘		
11:10~11:50	第三場	發表人	論文題目
		矢越 葉子 (御茶之水女子大學大学院博士 後期課程)	官司における文書處理 —正倉院文書と敦煌文書の比較を通じ て—
			與談人
			朱秋而 (台灣大學日文系副教授)
11:50~13:00	午餐		
13:10~14:50	第四場	發表人	論文題目
		高 丹丹 (御茶之水女子大學大学院留學 生、北京大學博士課程)	從唐令看唐王朝對內附之民的 若干管理政策
		古怡青 (台灣大學歷史系博士候選人)	唐代監牧制度對關畜的處理規定 —唐日令制的比較
		洪文琪 (中國文化大學史研所博士生)	追捕家奴 —從《天聖・捕亡令》看唐宋關於 奴婢的法令
			與談人
			金原泰介 (開南大學助理教授)
			野田有紀子 (御茶之水女子大學研究員)
			重田香澄(御茶之水女子大學大 學院博士後期課程)
15:00~15:20	茶敘		
15:20~17:20	第五場	發表人	論文題目
		孟 晶 (御茶之水女子大學大学院博士 前期課程)	中日交流史 —在長安的留學生和他們的生活
		嚴茹蕙 (中興大學歷史學研究所碩專班 研究生)	歲時節慶文化中的官方行事曆 —唐日令「節日」條比較
			與談人
			陳明姿 (台灣大學日文系教授)
			矢越葉子(御茶之水女子大學大 學院博士後期課程)
17:20~17:40	綜合討論 高明士(台灣大學歷史系名譽教授)		

2009年11月1日・2日、国立台湾大学に赴いて、共同ゼミ「日中文化交流史—日唐令比較研究」研究会を行いました。古くて新しいテーマである日中文化交流史について、近年中国で発見され注目されている天聖令という新しい令のテキストを中心に、台湾大学等とお茶大の院生と教員がホットな発表を行いました。受け入れ側である国立台湾大学日本語文学系主任の徐興慶教授が台湾大学歴史系名誉教授である高明士先生と相談して、日本史専攻である私たちのために、プログラムを組んでくださったことに心より感謝の意を表したいと思います。国立台湾大学歴史系の院生や他大学の歴史系の院生の人たちは、このプログラムのために、日唐令の比較研究という分野に挑戦してくれました。また、お茶大の院生も自分の研究テーマを日中文化交流もしくは日唐令比較に関係づけて発表にのぞみました。そのため、発表のテーマに統一性ができ、お互いに有効な議論を行うことができました。

台湾の学会では、発表ごとに与談人というコメンテーターをつけるのが習慣になっています。今回も、本学の発表者には国立台湾大学の先生方や台湾・日本の研究者の方たち、台湾の発表者には本学の院生がそれぞれ与談人を務めました。与談人を務めるためには、予め原稿を読まなくてはならないので、お互いに早く原稿を提出する必要性がありました。また、与談をするためには、相手の方の原稿を読むだけでなく、研究史の勉強なども不可欠です。これは、院生の人たちにとって大変勉強になったと思います。ふだん、あまり読まない田令、厩牧令、捕亡令などの篇目の令文に触れられたのもよかったことのひとつです。

台湾大学などの先生方からは大変的確なご指摘をいただきました。お茶大の院生の人たちの発表についてはレベルが高いとお褒めの言葉もいただきました。ただ、台湾の院生たちは中国語で発表し、お茶大の院生たちは主に日本語で発表し、討論は台湾大学日本語文学系の院生の人たちが通訳をしてくれました。その日本語の上手なことには驚きましたが、このような共同ゼミの使用言語については考えさせられました。

台湾はこの時期でもふつうは20℃くらいあるところ、私たちが訪れた時には珍しく12、3℃という寒い気温になりましたが、発表者以外にも多くの院生や研究者の方たちが参加してくださり、2日間にわたり熱い発表と議論ができたことは大変よかったです。お茶大で博士の学位を取得した翁育瑄さんが参加してくださったことも嬉しいことでした。台湾大学の先生方にとっては大変お忙しい時期にお邪魔したにもかかわらず、歓待してくださったことに御礼申し上げたいと思います。高明士先生が仰ってくださったように、これからも台湾大学とお茶の水女子大学の交流が継続されることを心より望みます。

【文責：本学教授 古瀬 奈津子】

